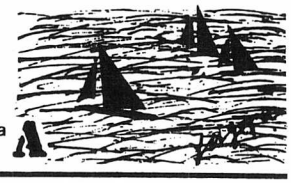
弓削通信 フェニックス

2012.9.15 №28（通巻155）Since 1991.6

発行者　平山和昭　☎&Fax 0897-77-3072
〒794-2509 愛媛県越智郡上島町弓削土生318-2
メール　yugeru3@ray.ocn.ne.jp
フェイスブック　http://www.facebook.com/kazuaki.hirayama
ブログ　http://blogs.yahoo.co.jp/yugeru_fish



十一月には変革へ舵を！

少子高齢化は何処も同じ。安心安全の町をつくれるのは「住民自治力」だ

本年十一月に予定されている上島町の首長選挙に関し、出馬を予定している方々は、それぞれが描く町の未来像を有権者にアッピールせねばなりません。

★トップで組織は変わる

どんな組織でも言えることですが、トップの在り様によって組織はどうとでも変わります。市町村でも国でも同じ事です。

ただ国とそれ以外の自治体とでは、政治を行う仕組みが若干異なる。つまり国政の場では、選挙で選ばれた議員の一部が行政の中枢に納まり、多くの省庁で働く役人を膝下に政府を構成し、他の議員は政府の監視役としての機能を果たす。

国以外では、選挙で選ばれた議員の全てが、同じく選挙で選ばれた首長（都道府県市町村長）一名と、首長の任命する副首長等の監視役に回わります。

仕組みの違いはありますが、簡単に言えば、国およびそれを構成する都道府県の未来は議員によって決まる。

総理大臣は国会議員でなければなれず、都道府県市町村の政治は議会の承認や同意がなければ進めることはできません。言わんとすることはもうおわかりだと思います。

★町民は何を求めているか

我が町は合併時、首長と議会議員は同日選挙で選びました。今年はその合併後第三回（期）目の選挙ということになります。

合併後いろいろな事績が達成されました。しかし、されなかった物も多い。そして達成されなかった事の中に、町民が望んでいるにもかかわらず町民の安全安心に直に響く事柄が含まれているのが問題なのです。

★勘違いの現状認識

その一つの例が六月からの尾道直行便航路の廃止です。

ことの重大性を認識していなかったらしい首長は、航路に対する自治体の支援に関し、航路業者から何も言ってこなかったなどと言ってます。設問の意味を読み取ることの出来ないトップだったという事でしょう。

町民が署名簿提出という形で航路を残して欲しいと意思表示をしたのは、業者ではなく「町民が」それを望んでいるという意味です。業者は赤字航路なので廃止にしたがっている。だからそうしないよう業者にかけあって欲しいと言う嘆願書。

そして、航路を残すことが出来なかったもう一つの原因が議会の機能不全。その機能不全をもたらしたのが議員の低質であったのは、この何年かを通観して多くの有権者の共通認識ではないでしょうか。

「議員が議員らしく働いてくれればいいのに」という意味の物言いが、あろうことか議会本会議でも何度か首長（町長）から発せられました。それに対してすらぐうの音も出ない、出さない動かないセンセイ方です。

町の未来は議員で決まる

★目指すべき議会改革

一口に議会改革と言ってもその中身は多様です。我が町にあってはさしあたり

●全町一区の選挙にすること。

●議会事務局要員を、行政からの派遣（出向）ではなく議会自らが人選雇用すること。

●議員定数と報酬の抜本的見直しをして、女性や子育て世代の議員への道を開くこと。

都市部からの移住組等比較的若い人たちが、議員としても政治に参画できるよう有権者の選挙に対する意識も変えて頂かねばなりません

●議員の質的向上のあかつきには政務調査費等の支給により議員提案議案（議員立法）が作れる議会になること、等。

★教育委員人選も大事

制度的には国法の改正を待たねばなりませんが、大津の中学生イジメ自殺に対する教育委員会や学校の対応に批判が強まる中、重大イジメに国主導で関与するような案が浮上してきています。こういうことが現実になると、国家権力が教育に口出しするようになり、自由民主主義の危機に直結しかねません。

多くの教育委員会が機能不全を起こしているせいですが、現体制でも適正な委員選定が為されれば防げる問題です。教育行政の要としての教育委員会委員の人選はとても大切で、事なかれ主義がはびこれば社会教育も学校教育も先行き暗いのです。

★無気力な前例主義を廃す

従来型に一手間加えることで町民誰もが納得できる人選の方法は必ずあります。

こうしてみると前例主義、惰性でやって来たことを徹底して改める。そのうえで果断に新しいことに挑む姿勢をもつということではないでしょうか。

そういう議会、そういう議員でありたいものです。

（平山和昭）

★合併してからも旧態依然

我が町の人口は、いつかも書いたように年におよそ百人規模で減少しています。

平成十六年の合併時八千人あまりの人口は、平成二十三年、七千四百人を切りました。高齢化率も四割に近付いています。そういう中で町の命脈をどう保ってゆくかが、最初から最後までのテーマです。

議会改革も言われて久しいですが、十年一日のごとし。とても残念なことです。有権者も本気をださねば悔いを残すことになりはしないでしょうか。

写真説明

瀬戸田町出身の世界的に有名似顔絵画家・宮地真一さんと書いてもらった作品。

因島空襲報告会

～生名と因島～

日時：９月25日（火）
午後１時半～３時半
会場：生名公民館１階　無料
主催：生名空襲報告会実行委員会
連絡：村上寛仁　0897-76-3067
青木忠　0845-22-7135

実る稲穂と秋の空

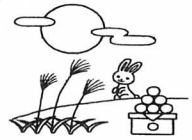
安藤朋生（ともき）　茨城県

オリンピックも華やかに終わり、暑く戦った甲子園の夏も過ぎようとしている。稲穂はこうべを垂れ実りの秋も目前だ。

黄金色の稲穂がずっと続く田舎道をドライブするのは気持ちがいい。ただただ真っ直ぐな道であるのだが、両脇に黄金色の稲田、その上をクリームパンのような雲が何重にも重なる景色の中を走るのは、なんとも幸せな気分になる。時々止まって写真を撮ることもある。今はいい時期である。

ここ何日か午後になると雷雨になることがある。物凄い音で雷が鳴る。また傘を忘れた…。と、いつも雷がゴロゴロ鳴り始めると思い出す傘のこと。そう言う訳だから、定時に仕事が終わってもピタリと帰れたためしがなく、上司に何をしていたのだと聞かれてしまうのだ。雨宿りをと言うと決まって、あるじゃないかそれがといたずらに笑い指差す方を見ると、段ボールの山。はぁ、それでも構わないのだが、車に乗り込む前に放り捨てるのも・・なぁ。置き傘をしなさいよと気のおけない友人に笑われて、雨がやむのを待つのもいい。そういう時間はまた話が弾むものだ。

さて、給料は下がるばかりで何の保障もなく、心は擦り切れる一方だ。なのに命ばかり下る。会社の同僚に辛くはないのか？と唐突に訪ねられた。何かは分からなかったが、そりゃ辛いさとだけ答えた。同僚はそうだよなと言って仕事に戻った。心が満たされゆくのは何も銭ばかりではない。ほんのちょっとのことなのだと思う。因島のはっさくゼリーがまた食べたいとかさ。



島に住みたい ㉖

弓削通信 フェニックス

2012.9.15 №28（通巻155）Since 1991.6

発行者　平山和昭　☎&Fax 0897-77-3072
〒794-2509 愛媛県越智郡上島町弓削土生318-2
メール　yugeru3@ray.ocn.ne.jp
フェイスブック　http://www.facebook.com/kazuaki.hirayama
ブログ　http://blogs.yahoo.co.jp/yugeru_fish

伝統とは

古い物を引き継ぐ意味だけでは無いと思う。古典芸能にしても発祥から今日までの間にいろいろ変化してきた。時代によって変化するのを受け入れてきたのなら、もう一方で新しいものを持ち込む試みが盛んであればなお楽しいのではないか。

弓削の盆踊りの実況

弓削土生地区の庄右衛門おどり

暑い長い夏が終わり今年もお盆には沢山の帰省客があった。お盆には伝統の盆踊りも欠かせない。弓削島でのそれは、かつては十三日～十五日にかけ夜毎の盆踊りが習わしだった。それもいつか簡略化されて、盆踊りをやめた地区もあれば、縮小した地区もある。

盆踊りの定番と言えば念仏踊りに炭坑節。そして念仏踊りは口説き節に替わり、いまでは「鈴木主水（もんど）の口説き」、通称ヤートセーが殆どである。

子どもの頃は何を歌っているのか解らなかった。長じてそれが三人心中の話だと知った。

妻子ある侍鈴木主水と吉原の白糸という遊女、そして主水の妻お安とが、それぞれの意地と義理の板挟みで次々自害。世にも珍しい三人心中をした、という話、顛末である。

なぜお盆の精霊などに心中話が出て来るのかとも思うが、この世に未練を残して世を去ったであろう先祖の無念さに共感を示す意味ではなかろうかと、勝手に想像している。

炭坑節も全国津々浦々に行き渡っている。当然それにも理由があるのだろう。ともあれ炭坑節の振り付けは万能。和洋どんな曲でもOKなのがすごい。

義民・田頭庄右衛門さんを悼む

▶一揆の罪で処刑された田頭庄右衛門さん（向かって右端）達の墓石。弓削島・土生地区定光寺山門前。

▲直下に処刑場の岩があるという庄右衛門堂

弓削の土生地区でも定番は鈴木主水と炭坑節。十三日の夜念仏にあわせ一日だけ催行されている。これは当分途絶えていたものを旧弓削町時代の末期、江戸時代の当地の義民・田頭庄右衛門を顕彰する意味で地区の漁業者が中心となり「庄右衛門祭り」が催されるようになった。その一環としての庄右衛門踊りの意味も持つ。

盆踊りはかつての定番鈴木主水に炭坑節を加えた組み合わせ。これはこれで伝統の踏襲だから充分有意義だと思いながら、心のどこかには、折角庄右衛門を顕彰するなら、庄右衛門の事績や無念を読み込んだ口説きを踊ればいいのになあ、と思っていた。しかしそうしたくても肝心の口説きが無ければそれもできない。

ということで、今年はお盆が終わった後、長年暖めていたことを実行に移した。つまり「庄右衛門口説き」を新作した。

体裁は鈴木主水の口説きに準じ六十番までである。口調は鈴木主水の口説きに合わせた。語りも振り付けも伴奏も、従来のままですむ。

「庄右衛門口説き（鎮魂）」は一揆（強訴）のてんまつと、一揆に加盟して命を落とした三十余名の名前を読み込んでいる。

地区の方々の賛同を得られれば、来年のお盆には義民庄右衛門の新たな鎮魂が出来るかもしれない。

炭坑節に関しては、昨年だか高井神島発の「上島音頭」というのがリリースされた。町内六つの島と名所を読み込んだもので作詞作曲・八木英二、唄・美土里りんご。軽快で楽しい曲だ。振り付けは炭坑節の振りで対応出来る。これなんかもご当地ソングとして全町盆踊りデビューさせたいものだ。（平山和昭）

きどぐち 二十八

青木喜代子

まつりでの出来事。コンテストの結果表を作るのに、パソコンがない、BSメモリーがない、と若いスタッフが騒いでいる。

「手で書こう。そのほうが早い！」と私が言うと「え～？字が汚いし・・・」「読めりゃいい。急げ！」パソコンよりペンが早い事もあるのだ。

明治生まれの祖母は「字は一生使うもの。綺麗な字は財産」といつも言っていた。そのせいか母は字を書くのが好きで、祖母ゆずりのきれいな字を書く。

母は「ゆっくりでいいから、ていねいに書きなさいよ」と私の肩ごしに消しゴム片手に書き方ノートを見ていた。

そんな母と習字教室に通うことになった。何度書いても合格点をもらえず、肩を落とし帰宅。

ある晩、落ちこぼれの母娘は秘策を考えた。居間のガラステーブルに先生のお手本を、その上に半紙を重ね、下から懐中電灯を点らすと、ほらね、お手本がきれいにうつる。次のおけいこ日が待ち遠しかったこと。

さて、大先生は、朱墨であちこちお直しになる。帰りの車の中で「訳がわからんね～」と母と話した。

それ以来、習字を習った事がなく、真っ直ぐ書いたつもりが斜めになり、字は躍っている。天罰か・・・。

絵手紙を描く母が「喜代子の様に遊んだ字が書きたいのに難しいね」と。横で聞いていた夫が、「お母さん、左手で書いたら？」

・・・・・

猛暑お見舞い申し上げます。いかがおすごしですか。

ガンコ夫婦は今年もクーラー無しで乗り切りました。オリンピックで暑くなり、政治の大ウソをきいて暑くなり・・・。

芸術の秋には何か心に栄養を注入したいものです。

日本のアフィシストがヨーロッパ映画を描く

野口久光
シネマ・グラフィックス

24年9月8日～10月28日まで

尾道市立美術館
〒722-0032 尾道市西土堂町17-19千光寺公園内 Tel.0848-23-2281

（招待券あります。先着順☎77-3072）

-----やよみ亭【映画研究会】無料-----

9月15日(土)夜7時から。どなたでも覗きにどうぞ。

「武士の家計簿」

○江戸時代会計処理専門家として代々加賀藩に仕えた猪山家の八代目直之（堺）の活躍とは？

出演：堺雅人　仲間由紀恵

やよみ亭　℡72-9188